

この度は APHS Scholarship 2023 に選出いただき、誠にありがとうございました。前日のワークショップを含め、9月21日から23日までマレーシアのペナン島で開催された大会に参加させていただきましたので、所感をご報告いたします。

まず前日開催のワークショップは、学会開催地のペナン島南部とは車で約30分（朝夕の渋滞時は1時間以上）の距離にある島北部の病院で、私は大きな勘違いをしており参加できなくなるところを、同日参加予定の先生方に助けて頂き参加することができました。地理に疎い人間にはやや不親切な案内で、学会開催地近くのホテルを確保している先生も多いだろうから、直通バスを準備してくれてもいいかなと思いました。

学会の2日間は Setia SPICE コンベンションセンターという近代的できれいな会場で開催されました。運営は開始時間や発表順がよく変更され、また発表者のスライドの準備が不十分で、全体的にはやや適当さがありましたが、演者・視聴者ともに行儀よく振る舞っており最終的には大きな問題なく終えられていました。発表内容は、腹腔鏡手術が中心で、特に鼠径ヘルニアは前方アプローチの発表は少なかったです。興味深く拝聴した発表は、日本国内で保険的に使用できないボトックス注射、メッシュ固定用のグルー、バイオリジカルメッシュを使用した腹壁癒痕ヘルニア／鼠径ヘルニア手術でした。また、日本ではあまり見られない巨大腹壁癒痕ヘルニアに対する治療も興味深く拝聴しました。「これありなの？」と思ったのは、手術に関する発表なのに発表内では一切動画を出さず、QRコードを表示しYouTubeをリンクさせただけの発表もありました。



自身の発表は「The optimal routine follow-up period for inguinal hernia repair based on Quality-of-life scoring」と演題名で、術後フォローにフォーカスした内容でのデジタル・ポスター発表でした。ポスター前の発表・質疑がなかったため、演題の内容に関して他の先生方の意見を伺う機会がないことが残念でした。また、モニターが3台しか設置されておらず、歩きながら興味のある演題を探すというようなポスターの良い点がないと思いました。本邦で開催される APHS では会場スペースが許すなら、紙媒体での掲示を考慮して頂きたいと感じました。ビデオ使用する発表は、先ほどのQRコードリンクのみにすると面白いかなと思いました。

1日目には、Gala partyに参加させて頂きました。日本から参加された多くの先生方と交流するばかりでなく、Jan Kukleta 先生とお話し鼠径ヘルニア手術でのメッシュ固定

について議論することができました。その他、タイの先生方や中国の先生方とも交流することができました。

ベナン島までの旅程において、ヘルニア学会理事長の蜂須賀先生と同じ飛行機だったため、同行させていただきました。日本での APHS 開催など様々なお話を楽しく伺うことができました。ありがとうございました。最後に、今回のような貴重な経験を積ませていただき、日本ヘルニア学会・関係各位に深く感謝いたします。今後も微力ながら国内外の学会発表などを通じて尽力してまいりたいと存じます。

